

2026年9月3日

AIを活用した空港運営業務・保守点検高度化に関する実証実験への参画 -空港の持続可能な運営に向け共同利用型のソリューションを構築-

成田国際空港株式会社は、総務省令和7年度補正予算「地域社会DX推進パッケージ事業(先進的通信システム活用タイプ)」の実証事業として、住友商事株式会社(※代表機関)および国内18空港と共に、AIを活用した空港運営業務・保守点検の高度化に向けた、以下2件の実証実験に参画します。

顕在化する空港運営・設備保守の人材不足に対応するため、複数の空港事業者による共同開発・共同利用を前提としたソリューションを開発し、導入・運用コストの抑制を図ります。

■ 場周道路点検AI

期 間 : 2026年度中

場 所 : 成田空港場周道路(制限区域内)

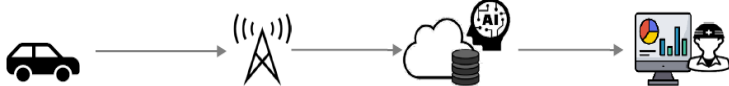
内 容 : 自動運転車両に搭載したカメラの映像をAIが解析し、
空港内場周道路周辺における侵入者や路面異常、
設備の損傷などを検知する。

効 果 : 巡視業務の負荷低減、工数削減



※イメージ

撮影 > データ転送 > AI分析 > ダッシュボード表示

**侵入者検知****施錠確認****動物掘込み**

■ エアサイド業務高度化AI

期 間 : 2026年度中

場 所 : 成田空港内駐機スポット(制限区域内)

内 容 : 駐機場エリアの映像をAI解析しターンアラウンド
(出発前作業)の進捗を測定する。
出発予測時刻の算出や作業状況の可視化が可能。

効 果 : 計画的な出発管理による定時性向上。

航空会社やグランドハンドリング会社と共有することで
作業効率化や安全活動に寄与。



▶ [住友商事株式会社 プレスリリース](#)